

臨床検査科支部会報 ピペッツVol. 27

2006年2月25日発行

編集責任者 舟田 和幸
編集委員代表 見手倉久治 近末久美子
編集発行 川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部
〒701-0194 倉敷市松島316番地
TEL 086-462-1111（内43097）
印刷 友野印刷㈱

川崎医療福祉大学 医療情報科教授 上田 智

平成17年12月20日付けで会報ピペッツ編集部より原稿依頼の手紙を受け取りました。

今年は初代学科主任の佐々木匡秀先生が死去されて悲嘆にくれておりました矢先の事で是非佐々木先生の事を記事にしなければと考えてワープロに向かいました。

平成17年の進生会には元気な姿で（5/21）、岡村先生の講演に対してコメントを言われ、前立腺癌の発見で岡村先生にお世話になったことを述べられ、前立腺癌の発見後の処置でわが国で最先端と評価されているのが、川崎医大泌尿器科であることも佐々木先生の言葉で知りました。前立腺癌に関してはその後外来でフォローしているので安心であることを言われ、我々もほっとしておりましたが、今年の9月中旬頃に岡村一心堂病院に入院され意識が無いことを電話で知り、岡村先生に直接電話して意識が無いことを告げられました。

丁度出張で山口県に居り、大場先生から電話で連絡を受けました。

佐々木先生は柴田進先生の門下生であり、佐々木先生の新発明には常に感嘆の言葉を発しており、「日本

のエジソン」と密かに先生のことを尊敬の念を込めてニックネームとしておりました。川崎医療短期大学臨床検査科の発足に当たり、佐々木先生以外には柴田先生の教えを伝達することのできる人は居ないと誰もが思い、見事に臨床検査科の初期のカリキュラムを完成されました。殊に基礎学習はユニークなもので、柴田先生のお考えが盛り込まれた「腕の立つ技師」を養成するためのユニークなカリキュラムでした。基礎的技術の習熟は勿論の事、私には精神的鍛錬の側面が多分に抱合されていたように思われます。

基礎学習を経験した入学生は見違えるように成熟した短大生に変身していたように思われます。これは佐々木先生の努力のお陰です。入学試験の面接からユニークでした。先生の目指す実務教育が入学試験の時から始まっているようでした。面接試験が佐々木教室の教育の始まりのようでした。恐らく合格通知を受けた受験生は全て短大での厳しい習練に耐えうる精神力を持って入学したことでしょう。

平成17年9月23日に宇部の地でしめやかにご葬儀が行われました。

先生の安らかなご冥福をお祈りします。



川崎医療短期大学臨床検査科1～8期合同同窓会 平成11年5月29日 於 アークホテル岡山

追悼 佐々木匡秀先生

1期生 後藤 幸策

佐々木先生は、私が昭和48年4月、川崎医療短期大学臨床検査科に入学してから32年間私の人生の師匠としてご尊敬申し上げておりました。その先生が急に逝去され、悲しみで一杯です。1期生には特に熱く情熱を持って教育してくださいました。病院で働きながら実習は夜遅くまであり、先生も学生も一生懸命だったと思います。

川崎病院では、検査室の立ち上げで、部屋の改装、そしてミニペットを使った超微量定量法での化学検査がはじまりました。先生がこられた日の昼ご飯は、炬燵で焼きた秋刀魚と麦飯でした。また、先生は釣りが大好きで、秋にはよくチヌの夜釣りに行ったものです。

高知医科大学附属病院では創設のときから一緒にさせて頂きました。先生は、検査部のオーダリングシステムとベルトラインシステムの仕事に命をかけておられました。ベルトラインシステムの開発には、朝礼から始まり、毎日深夜まで作業は続きました。先生はいろいろなアイデアを出され試行錯誤であのベルトラインシステムが出来上がりました。ときには意見のぶつかり合いもありましたが、出来上がったときは皆で万歳をして喜びました。このシステムは日本は勿論の事、世界の臨床検査に大きな変革を与えることになりました。

四年前、先生の御地、宇部市で合同同窓会がありました。先生とお酒を酌み交わしながら夜遅くまで昔話に花が咲きました。先生が蒔いた種が芽を出し、大きな花を咲かせた教え子の成長振りを見て先生はとても嬉しそうでした。もう先生とお酒も呑めないのかと思うと残念でなりません。先生との出会いで先生からいろいろご指導を頂き心より感謝を申し上げます。先生ありがとうございました。さようなら。

2期生 大森 恵美 (旧姓 馬場)

山口での同総会で、佐々木先生の暖かさに数十年ぶりにふれました。学生の頃、学生寮に帰るのが遅いとか勉強しろだとか教授室に呼ばれてばかりでいました。「私は先生がとても怖かった」。しかし、岡山川崎病院に就職した後、先生の教えで身についた負けてたまるかの根性が私の助けとなりました。そして、佐々木先生の優しさと強さを改めて感じました。先生の検査への思いは素晴らしい先輩や後輩によってずっと生き続けます。また、現在仕事から離れた私自身においても、先生から学んだ忍耐力と向上心が生活の糧となっています。

3期生 小倉 克巳

佐々木先生には川崎医療短期大学に入学してから30年間、長きにわたりご指導頂きました。昨年の7月、奥様と一緒に高知に来られた時、お酒を酌み交わしたのが最後となりました。誠に心残りではありません。高知大学検査部と言えば佐々木先生であり、佐々木先生と言えばベルトラインシステムであり、20年以上稼働しました。しかし、老朽化には勝てず、現在再構築の真っ最中であり、完成を見て頂きたかった。先生の検査に対する思いを受け継いだ新システムを「なっちゃん」と言われるか、「ようやく」と言われるか、その言葉を楽しみにしていましたが、非常に残念です。公私に渡り、様々な事を教えて頂きました。佐々木先生の思いは私達教え子がしっかり受け継ぎました。安らかに眠りください。

3期生 藤井 昌江 (旧姓 山口)

佐々木先生が亡くなられて思うこと。それは、親身になって学生のことを思ってくれる先生を失ったということでしょう。今時、「親身になる」という言葉も死語かもしれません。まして「親身になる先生」は。卒業試験の頃、「試験さえ通れば、良く出来る子だと言って就職先を紹介してあげる。成績が悪いのなら、器量がいいと紹介してあげる。器量が悪ければ、気だてがいいと紹介する」と言われていました。まるで、学生を嫁に出すかのように。いまこそ、必要とされるのは親身になってくれる先生でしょう。本当に惜しい…。ご冥福を祈ります。

4期生 岡本 由美 (旧姓 小万)

この原稿の依頼を受けてから思い出した。ピペッツ創刊号に4期生として執筆した。その当時子供が生まれ、一番環境が変わったという理由であったように記憶している。

佐々木先生の追悼としての今回の依頼であった。昨年末、佐々木先生の訃報を受けて近隣の卒業生と病院に向かった。学生だった頃の怖くて、たくましくて、人情味あふれたお姿が走馬灯のように頭の中をめぐった。病院の暗い部屋で静かに横たわっておられた。

今にも起きだしてきて、「何をやっとならぬ。」と叱責されそうな変わらないお顔だった。

「臍臓は発見が遅れたら命取りだ。」と、教えてくださったのは佐々木先生あなたなのに……

その数ヶ月前、私の勤務する病院の前院長が亡くなられた。どうしてもお二人の生き様が重なってしかたがなかった。ひたすら自分の信念と使命感で迷わず突き進み、医療のため患者さんのため、一生を捧げられ

たお二人の最後であった。人生とは、信念とは、終焉とはということ、考えさせられた。

佐々木先生の志とされた臨床検査技師像に近づいているのだろうか、この24年間成長してきただろうか、そして、後12年間をどのように臨床検査技師として最後を迎えようかと考える大きなきっかけとなった。

現在、倉敷で勤めている私にとって、川崎医療短期大学で学んだということがどれだけありがたい事であるか身にしみて感じている。そのことについては、佐々木先生と触れた卒業生は誰もが感じていると思う。そして、それは佐々木先生が道を作ってくれたからである事を確信している。

ピペッツ創刊号から24年が過ぎ、その時に生まれた息子も、私も、今年が年男・年女となった。あつという間の月日であった。

もう一度、再起動をかけてがんばろうと、気持ちを新たにした。

5期生 宇野 二郎

学生時代に「ばかもーん」「何しちよるか？」とよく叱られた私は、佐々木先生はとても怖い存在であった。しかし卒業後、高知医大でのベルトラインの見学や自動化学会でお会いした時は、いつも笑顔で声をかけてくださり嬉しかった。先生に就職させて頂いた倉敷中央病院で学生時代、一番嫌いだった科目の化学で26年間も頑張ってきたのは、先生に何事にも疑問、探究心の思想を持つ姿勢を教えて頂いたことと感謝しています。そんな佐々木先生逝去の訃報が小郷先生より届いたのは9月23日の夕方、どしゃ降りの大雨の日でした。

岡村一心堂病院でのお別れ会へ向かう途中の車の中で、先生にお世話になった卒業生の涙がこんな大雨にしたのだろうと想いながら雨と涙で前がよく見えませんでした。先生はとても優しい顔で安らかに眠られていました。先生、本当に有難うございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

6期生 河口 勝憲

佐々木先生のご冥福をお祈り申し上げます。我々6期生は、先生が高知医大に赴任されると同時に卒業しました。個人的には当院の大倉君と競い合い、副学長室に最もお世話になった一人であったと反省しています。先生の高知医大退官記念CD(検査報告のグラフ化)は講演音声も入っており、今でも病院実習で学生教育の教材として重宝しています。Sanz ピペッツは幻の一品となりましたが、1台だけ残ったミニペット完全版は学生達に、大うけで感動するようです。超微量定量法の原点は我々卒業生の心に刻まれており、佐々木先生の多岐にわたる教えを伝承・発展していく所存です。…good-luck…

6期生 児島 葉子 (旧姓 黒井)

卒業してから先生にお会いできるのは同窓会と各学会でした。大抵は一方的に、先生の変わることのない信念を持った発言を聞いて、短大時代を思い出していました。機会あってかけていただいた言葉は「亭主は元気か?」「亭主を大事にしちよるか」。検査技師として話したいという気持ちは片想いで終わりました。高知医大退官記念事業発行「夢はるか」にサインと一緒に記していただいた言葉も「亭主第一、己は二番」。情が深く強い信念がある先生の夢に終わりはなかったでしょう。どうかゆっくりお休みください。このお正月は高知の酒「司牡丹」を主人と飲みながら過ごしましたよ。

7期生 鐵原 恵子 (旧姓 竹中)

私達7期生は先生が川崎を去る最後の2年間を共に過ごしました。「卒業まで責任がとれないから……」と(たぶん)先輩方ほど、口を出されませんでした。が、日常の生活態度や医療に携わる者の心構えなど最低限度のマナーを時に厳しく、時に優しく教わったと思います。このようにいつまでも心に残る先生が少ない昨今、私達の人生においてこの2年間は貴重な体験だったと思います。ここに謹んで哀悼の意を表し、心より御冥福をお祈りいたします。

7期生 泉 礼司

私たちの母校 川崎医療短期大学 臨床検査科の開学とその発展に、中心的な指導者としてご尽力をいただき誠にありがとうございました。

私たちにとって先生は、指導者であり、また父でもありました。先生もよくご存知のとおり、佐々木先生が育てられた先輩達が、日本の臨床検査技師分野において、すばらしい実績をあげており、一方では、先生の意思を継ぐ教え子達が若い次世代の臨床検査技師を育てております。

佐々木先生 長い間お世話様になりました。ご安心して、ゆっくりお休みください。



8期生 神田 明美

バイタリティ溢れ、とても温かい先生でした。そこに居たださるだけで心強く、何だか頑張れそうな気になれました。大きな大きな存在でした。私たちが先生と過ごせたのはわずか1年でしたが、生涯忘れえぬ大切な思い出のいっぱい詰まった1年間です。先生と出会い、教え子であったことをとても幸せに思っています。先生、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

8期生 木村 泰治

私達8期生は、佐々木先生の川短最後の教え子で1年間ご指導頂きました。臨床病理など、本当に熱心に身振り手振りを交えて分かりやすい授業だった事を思い出します。また3年生の時、友人3人で突然高知医大にお邪魔した際にも、自ら検査部内をご案内くださり、検査部立上げのビデオも見せていただきました。いつまでも変わらない仕事に対する情熱と、私達への愛情を感じることが出来ました。佐々木イズムを胸に刻み、これからも仕事に精進したいと改めて思いました。ご冥福をお祈りいたします。

◆会費納入のお願い◆

臨床検査科支部同窓会では会運営のため、卒業時と卒業10年毎に会費5,000円を頂いております。

「ピペッツ」の発行をはじめとして各期同窓会開催に対する援助や、学生との交流会開催などさまざまな活動を行っております。

皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年度は20期生(5,000円)と10期生(7,000円)が該当しております。

10期と20期の方には振込用紙を同封しておりますので、お名前と旧姓、期をご記入の上、平成18年3月31日までにお近くの郵便局(または銀行)よりご入金お願い申し上げます。(銀行振込の場合の振込み手数料はご負担下さい。)

尚、1期から9期までの方々で未納の方は7,000円、11~19期の方々で未納の方は5,000円をご入金いただきます様よろしくお願い申し上げます。

不明の点がございましたら当支部ホームページからメールをいただくか、下記までご連絡いただければ幸いです。

支 部 長 舟田 和幸 (kazuyuki_funada@city.okayama.okayama.jp)

副支部長 中務二規子 (tsukasa@med.kawasaki-m.ac.jp)

副支部長 見手倉久治 (mitokura@med.kawasaki-m.ac.jp)

川崎医療短期大学
同窓会(松丘会)

臨床検査科支部ホームページ

大学の近況が写真で見いただけます。

年4回更新し、最新情報を発信しています。

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/dousoukai/MTshibu/index.htm>

— 編 集 後 記 —

暦の上では春となりましたが、まだまだ寒い日が続いております。各地で記録的な大雪による被害が、毎日のように聞かれますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

多くの方から佐々木先生への追悼メッセージをいただきました。私は、直接的なご指導を受けなかったのですが、改めて素晴らしい先生だったのだらうと想像しております。またこのような温かいメッセージを皆様に届けることができるのを、企画・学術部一同うれしく思います。会員皆様のための“ピペッツ”です。これからも色々なメッセージを届けるためにがんばっていきます。

トリノオリンピックはどうなっているのでしょうか一生懸命がんばっている人を見ると応援に熱が入り寝不足になりそうです。結果がどうであれ素晴らしいフェアプレーを見るのは気持ちいいですね。次号も楽しみにお待ち下さい。

(見手倉)